



## こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和7年11月12日(水)

実践！オンサイト製炭

～今年も米代川河川敷伐採木の製炭～ 編

何度も天気予報を確認して選んだこの日。朝晩冷え込むようになり、白神山地方の遠くの山々の頂は白くなっていましたが、強風もなく、絶好の炭焼き日和です。能代河川国道事務所が河川管理の一環で伐採した米代川河川敷の支障木を炭材に、4回目の製炭を行ないました\*。「なるべく炭材発生場所と利用先の近くで行なうこと」がポイントの一つですので、これまでと同じ米代新橋の北側袂から東へ1kmほどの場所で行いました。

能代河川国道事務所からは調査課の3人のほか、午前・午後の交代制で6人の方がご参加くださったほか、研究所からも6人が参加し、これまでにない人数となりました。9時半から消火用水の入ったポリタンクを下ろしたり、簡易炭化器2台を組み立てたりと準備を始め、日が落ちる前、16時過ぎには撤収することができました。

昨年同様、炭材が約2mと長く、そのままでは炭化器に入りません。柴のような細いものは手で折り、直径が3cmを超えるような太いものは電動ノコで半分程度に切断しました。伐採から時間が経ってよく乾燥していたため、各炭化器で2回、製炭することができました。最終的に土のう袋54個分の木炭ができました。

栗本先生の計算によれば、今回の製炭で451kgと過去最大の二酸化炭素を固定したことになります。こうしたデータは、地図情報や写真データとともに公開していく予定です。

また、黒松剪定枝葉の木炭と合わせて国道7号沿いの緑地に埋設し、防草効果の検証をしながらNWの木炭活用の取り組みを発信していくことにしています。

ご参加下さったみな様、大変お疲れ様でした。

文：渡辺 千明

\*令和6年7月18日、\*\*令和7年10月24日活動レポート参照



先月の製炭\*\*で残ったクロマツの剪定枝葉を炭化器の底に敷き着火します(上)。良く乾燥していて長くて細いものは簡単に折れます(下)。



完全に燃えてしまわないように気をつけながら伐採支障木を投入していきます(上)。炭ができ、炭化器がいっぱいになってきたら冷まします。水をかけたところがすぐに黒く変わります(中)。炭化器には底がないので、別の場所に移してまた製炭を始めます(下)。



続きイベント時のノウハウ蓄積のため七輪と金網で3種の焼き芋を作りました(左)。じゃが芋が予想以上に好評でした(右)。